

微量アルブミン定量[尿]		24000				
U-ALB		担当部署 生化				
検査オーダー						
患者同意に関する要求事項		特記事項なし				
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→				
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→				
	3					
	4					
	5					
検査に影響する臨床情報		尿中アルブミンの日内変動、日差変動は大きく、こと運動により AER(アルブミン排泄率)は増加するので、来院後、一定の安静時間を経て採尿することが望ましい。				
検査受付時間		8：15～16：00				
検体採取・搬送・保存						
患者の事前準備事項		尿中アルブミンの日内変動、日差変動は大きく、ことに運動により AER(アルブミン排泄率)は増加するので、来院後、一定の安静時間を経て採尿することが望ましい。				
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし				
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位		
1 新鮮尿	23 スピッツ	なし	10	mL		
2 蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL		
3 -	-	-	-	-		
4 -	-	-	-	-		
5 -	-	-	-	-		
6 -	-	-	-	-		
7 -	-	-	-	-		
8 -	-	-	-	-		
検体搬送条件		室温				
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固体物 4)粘性のある検体				
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)				

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部								
測定時間	当日中～翌日								
生物学的基準範囲	設定なし								
臨床判断値	設定なし								
基準値					単位 mg/L				
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値				
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし				
パニック値	高値	設定なし							
	低値	設定なし							
生理的変動要因	特記事項なし								
臨床的意義	<p>尿中アルブミンの排泄量が基準範囲を超えた微量アルブミン尿は、将来的に持続性蛋白尿に進行する確率が高いことが予知できる。糖尿病性腎症の第1期ないし第2期で通常の試験紙法による尿蛋白が陰性、あるいは間欠的に 1+程度の陽性を示す患者が対象になり、持続蛋白尿を呈するようになった第3期以降の患者では測定する意義はない。この検査の限界として微量アルブミン尿の出現以前に糸球体濾過値が低下している症例は、まれでないことが至適されている。</p> <p>日本臨床第7版 1 97,2009</p>								